

き 聞いてみました

6年生15人へのアンケートで「将来の夢」を尋ねると、歯科技工士、ゲームクリエイター、トリマー、医者、ダンサー、テニス・バレーボール・体操選手、アナウンサーなど多種多様な職業を回答。「客室乗務員になりたい」という児童もいて、理由は「客室乗務員は乗客の安全を見守る保安要員だから」。学校で学んでいる災害時に必要な知識、心構えの習得が夢を抱く根底にあり、「いざというときは落ち着いて行動し、自分の命を守り、人の命を救える人になりたい」という。

春からは中学生になるが、目標を尋ねると、「部活が始まり、勉強も難しくなるが、両立できるようにがんばりたい」「小学校で身に付けた歯磨きなどの習慣や防災についての勉強は続け、さらに新しいことにも挑戦したい」と意欲を見せた。

【歯と口の健康づくり】
2カ月に1度、1年と6年、2年と5年、3年と4年がペア学年となつて給食を食べ、一緒に歯を磨いている。

昨年12月、「しっかり鏡を見て、こう磨くといいよ」「ここはすこきれいに磨けているから、続けてね」などと1年生に磨き方を優しくアドバイスした6年生。「教えることで、自分の振り返りにもなる」「歯磨きは自分の体を守る。歯磨きする理由も教えてあげたい」と話した。

このほか、学校では抜き打ちで磨き方をチェックする「突然はピカ」、歯磨きチャンピオンを決める「ピカリンピック」も実施。PTAの母親委員会は、夏・冬休みにも歯磨きを続けられるように「歯磨きカレンダー」を作成。学校と家庭が連携し、子どもたちのやる気を応援している。

ペア学年で歯磨き



6年生から歯の磨き方を学ぶ1年生＝可児郡御嵩町宿、上之郷小学校

ピカピカの歯と笑顔



段ボールで間仕切りをし、寝床をつくる4年生

【防災教育】
2011年の台風15号による大雨で、土砂災害や校舎の浸水、通学路の冠水で被災した教訓を踏まえ、防災教育に力を入れていく。▽毎月、防災の日を設定▽予告なしの避難訓練▽水難事故を想定した着衣泳体験▽町防災訓練参加など、災害に対する知識や自らの命を守るためのスキルを身に付けている。

秋には、4年生が学校に宿泊する「防災キャンプ」を行った。非常食を食べたり、段ボールで間仕切りを作って寝たりと、避難生活を体験。起床前に訓練の緊急地震速報が流されたが、児童たちは慌てることなく、セーフティゾーン(動いてこない、倒れてこない、落ちてこない)に頭を隠し、おはし・も(押さない、走らない、しゃべらない、戻らない)を実践。私たち地域の一人、自分の安全を確保できたら、周りの人を助けたい。もっと知識を身に付けたい」などとキャンプを振り返った。

とにかく笑顔が美しい学校だった。全校児童が「虫歯ゼロ、と聞いて納得した。児童も先生もみんなが輝く笑顔で迎えてくれた。

「歯の部屋」もあった。歯と口の健康づくりに励む児童の足跡が資料と写真で保管されていた。ど

さしや 記者 ひとこと

の取り組みも、児童の心をくすぐり、やる気を引き出す先生らのアイデアにあふれていた。歯磨きははじめ、重ねる予告なしの避難訓練も、「特別なことではないよ」と子どもたち。習慣化される多彩な取り組みが未来の力を育てている。(神保絵利子)

上之郷小から こんにちば

わたしたちの学校

可児郡御嵩町の東に位置する。1873(明治6)年、上之郷地区の3カ所に「発分・開道・先進」義校が創立。改称、合併を重ね、1947(昭和22)年に「上之郷小学校」の名称に。学校目標は「すすんでやりぬく上之郷の子」。地域とのつながりが深く、「自ら学び考える子・豊かな心の子・たくましい子」の育成に努めている。(棚瀬哲校長、児童数91人)